

映像制作・構成案

ドラマタイプ：関門篇『潮待ちの光』 構成案

1. 概要

タイトル：潮待ちの光

尺：3 分

ジャンル：青春ロードムービー風ミニドラマ

舞台：門司港駅・関門人道トンネル

テーマ：進路に迷う若者と、海峡を越えて出会う言葉。待つことと歩くことの意味。

2. あらすじ(60 秒×3 構成)

第 1 幕(0:00～1:00)「歩き出す日」

門司港駅で電車を逃した大学生・航太は、気まぐれで関門人道トンネルを歩いて下関側へ向かう。トンネルの静けさの中、彼は自分の進路に迷っていることを考え始める。

- 映像：門司港駅のホーム、トンネル入口、歩く足音と潮騒
- 音楽：静かなギターと環境音

第 2 幕(1:00～2:00)「海峡の真ん中で」

トンネルの中央地点で、年配女性・澄子と出会う。彼女は「ここは潮の真ん中。人の気持ちも揺れる場所」と語る。航太は、自分の迷いを少しずつ言葉にしていく。

- 映像：トンネル中央のプレート、対話、潮流のイメージカット
- 音楽：ピアノと波音のミックス

第 3 幕(2:00～3:00)「出口の光」

澄子は「潮は待ってくれないけど、人は待てる」と言い残して歩き出す。航太はトンネルの出口に向かって歩きながら、スマホをしまい、空を見上げる。出口の光が彼の顔を照らす。

- 映像：トンネル出口の逆光、歩く後ろ姿、海峡の広がり
- 音楽：余韻を残すアコースティックギター

3. ロケーション案

ロケ地	撮影時間帯 特徴	
門司港駅	午前中	レトロな駅舎と静かなホーム
関門人道トンネル	昼前後	潮騒と静寂、中央地点の象徴性
トンネル出口(下関側) 夕方		光と開放感の演出に最適

4. キャスト案

- 航太(大学生)：門司出身、進路に迷う青年。自然体の演技ができる若手。
- 澄子(年配女性)：下関在住。地元の語り部的存在。実在の地域住民の起用も検討

5. 映像演出

- 色彩設計：トンネル内の青白い光、出口の橙、潮流のグラデーション
- カメラワーク：固定ショットで“待つ”時間を演出、トンネル内の歩行を長回し
- 小道具：スマホ、潮見表、中央地点のプレート

関門人道トンネルは「歩いて海峡を越える」という唯一無二の体験ができる場所です。物語に挿入することで、心理的な“越境”と地域の象徴性が深く結びつきます。

映像制作・構成案

ドラマタイプ：下関篇『唐戸の声』 構成案

1. 概要

タイトル：唐戸の声

尺：3 分

ジャンル：地域ドキュメンタリー風ドラマ

舞台：唐戸市場・唐戸商店街・あるかぼーと付近

テーマ：働くことの意味、地域の声を拾う、世代交代と記録

2. あらすじ(60 秒×3 構成)

第 1 幕(0:00～1:00)「録音する青年」

映像制作を学ぶ専門学生・直人は、卒業制作のためにあるかぼーと付近、唐戸市場の音を録音している。魚の声、店主の掛け声、氷の音。祖父がかつて市場で働いていたことを思い出す。

第 2 幕(1:00～2:00)「声の主たち」

直人は録音を通じて、様々な店主と会話する。「この声、残してくれるのか？」と笑う人もいれば、「昔はもっと賑やかだった」と語る人もいる。直人は、ただの音ではなく“記憶”を拾っていることに気づく。

第 3 幕(2:00～3:00)「編集風景」

録音した音を編集する直人。祖父の声は残っていないが、同じ空気を吸っていた人々の声が残っている。彼は作品タイトルを「唐戸の声」と名付ける。画面は市場の朝焼けで終わる。

3. ロケーション案

ロケ地	撮影時間帯	特徴
あるかぼーと付近、唐戸市場	午前中	活気ある音と人の流れ
商店街裏路地	昼過ぎ	静かな語りの場面に最適
シネポス事務所	夜間	モニターと音響演出で余韻を強調

4. キャスト案

- 直人(専門学生)：下関出身、音と記憶に向き合う青年。
- 市場の店主たち：実在の商店主を起用し、リアルな語りを収録

5. 映像演出

- 色彩設計：氷の白、魚の赤、朝焼けの橙
- カメラワーク：市場の臨場感を意識、ケースで静止画と音声の組み合わせ
- 小道具：録音機材、祖父の写真、編集ソフト画面

どちらも地域の“時間”と“声”をリアルに描きながら短尺でも深い余韻を残す構成です。

映像制作・構成案

ドラマタイプ：門司篇『レトロの窓』 構成案

1. 概要

タイトル：レトロの窓

尺：3 分

ジャンル：幻想恋愛×写真×地域情緒

舞台：門司港レトロ・旧門司三井倶楽部・ノーフォーク広場

テーマ：記憶の中の恋と風景、写真に残らない存在

2. あらすじ(60 秒×3 構成)

🌀 第 1 幕(0:00～1:00)「窓辺の出会い」

写真家志望の青年・悠人は、門司港レトロの街並みを撮影していた。旧三井倶楽部の窓辺で、クラシックな衣装を纏った女性・凜と出会う。彼女は「この街の記憶を撮って」と語る。

- 映像：ステンドグラス越しの光、クラシックな衣装、フィルムカメラのシャッター音
- 音楽：ピアノとアコーディオンのレトロ調旋律

🌀 第 2 幕(1:00～2:00)「写らない彼女」

悠人は凜をモデルに撮影を重ねるが、映した写真には彼女が写っていない。彼女は「私はこの街の“窓”なの」と微笑む。彼は彼女の存在が“記憶”そのものであることに気づき始める。

- 映像：モノクロ写真、凜の後ろ姿と消える足音
- 音楽：幻想的な弦楽器とノイズ混じりの音響

🌀 第 3 幕(2:00～3:00)「レトロの窓」

凜は「最後に、窓の外を撮って」と言い残し、旧三井倶楽部の窓辺から姿を消す。悠人が撮った写真には、彼女の姿はないが、窓の外に彼女の影が映っていた。彼はその写真を展示し、「レトロの窓」と名付ける。

- 映像：窓辺の逆光、展示された写真、ノーフォーク広場の海風
- 音楽：静かな余韻を残すピアノと波音

3. ロケーション案(撮影許可・時間帯含む)

ロケ地	撮影時間帯	特徴
旧門司三井倶楽部	午後～夕方	洋館の窓辺とクラシックな内装が幻想的
門司港駅・レトロ街	午前中	レトロな街並みとフィルム演出に最適
ノーフォーク広場	夕方	海辺の風と余韻のラストシーンに最適

4. キャスト案(地域性と情緒重視)

- 悠人(青年写真家)：20 代後半、静かな情熱を持つ青年。フィルムカメラを扱う所作にこだわる。
- 凜(謎の女性)：20 代後半、クラシックな衣装を纏う幻想的な存在。無言の演技と表情で情緒を表現。

5. 演出・映像美

- 色彩設計：セピア調＋ステンドグラスの色彩、モノクロ写真との対比
- カメラワーク：窓越しの逆光、フィルムの巻き戻し、展示写真のスライド演出
- 小道具：フィルムカメラ、写真帳、クラシックな帽子と手袋

門司港レトロの魅力と幻想的な恋の記憶を軸に、
視覚的にも情緒的にも余韻を残す作品を目指します。

“カンモンハート”プロモーション企画案

1. コンセプト

関門エリアに点在する“カンモンハート”を、若い男女大学生が“宝探し”のように巡るミュージックビデオ。既成曲のリズムに合わせて、実在スポットの魅力をテンポよく紹介しながら、最後に二人が出会う青春ストーリーを描きます。

2. 主人公

- 男子大学生（主人公）：写真好き。旅先での偶然を楽しむタイプ。
- 女子大学生（ヒロイン）：SNS で話題のスポット巡りが趣味。
- 二人は互いを知らないが、同じ“カンモンハート”を追いかけている。

3. 映像トーン

- 実在スポットをしっかりと映す“観光 PR”の要素
- 若者向けのポップな色彩
- SNS 風の演出を少し入れて、拡散性を高める
- 既成曲のテンポに合わせてカットを調整できる構成